

# POWER!

2016年  
9月  
vol. **47**

平成28年(2016年)  
9月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟  
〒160-0004  
東京都新宿区四谷4-3  
四谷トーセイビル2階  
TEL (03) 3225-3100  
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 隔月(奇数月)発行

<http://www.yakuren.jp>

## ご挨拶

日本薬剤師連盟 会長 山本 信夫

日本人にとって「万歳！」という儀式は様々な意味合いを持っているように感じています。多くの場合に「喜ばしい出来事が起きた」時に、皆で諸手を挙げてお祝いをする時のごくポピュラーな日本人としての行動様式です。中には、なんで万歳なのかとずっと気になるシーンもありました。衆議院の解散が決まると、代議士の方々は、議場で「万歳～」をされますが、なんとなく一般人が感じる「万歳」には馴染まないように思います。

もちろん、悲惨な戦争を経験した方々にとっての万歳は必ずしも「お祝い」の儀式とは異なった感情を持っている方々もまだ少なくなく、子供時代の社会環境を思い返せば、さもありなんと納得してしまう自分が随分と、年寄りに感じてしまいます。

しかし、去る平成28年7月11日午前4時15分に、藤井基之選挙対策本部に集っていた多くの支援者の方々が、大声で叫ばれた「万歳～！」三唱は、それが二度三度と繰り返されても、そこに集い、この時を待ち望んでいた方々にとっては、「喜び！」以外の感情など入り込む隙間のないほど、感激的な「万歳！」でした。

6年前にスタートした地道な藤井先生への支援活動、参議院選挙を一年後に控えた昨夏、第一次自民党公認候補者名簿に推戴され、明けて2016年6月22日公示後からの全国を東奔西走した選挙活動等、日本薬剤師連盟は長く決して楽ではない、厳しい選挙戦を戦ってまいりました。しかし、それを全うし、大願成就を勝ち取る事が出来たのも、全国の「藤井を応援しよう！」「我々の代表藤井を、三度国会に送る！」という確信の下で、必死の形相で6年間の戦いの間、途切れることなく藤井基之先生へのご支援を続けてくださった、都道府県薬剤師連盟の役員はじめ、全国の会員の皆様の賜と思っています。これからの6年間も、藤井基之先生が国政の場で縦横無尽に働く事が出来るよう、これまでに変わらぬご支援をお願い申し上げます。

## 参議院議員選挙を終えて

日本薬剤師連盟 副会長兼幹事長 岩本 研

平成25年10月2日の平成25年度臨時評議員会において「平成28年7月に予定される、次期参議院議員通常選挙における、組織内統一候補を藤井基之参議院議員とし、万全の準備を期す。」と決定しました。

それから2年と10カ月間、私の頭の中は藤井選挙のことしか考えられなくなっていました。そうこうしている間に小田幹事長が急逝し、その責務が大きいのしかかってきました。私で大丈夫なのか？勝てるのか？その不安に苛まされる日々が続き食事がのどを通らないこともありました。しかしながら回りの方々に励まされて、勝たなければならない！と何度も自分に言い聞かせ、旗を振り、皆様には厳しいことも言いました。かなり嫌われたのではと反省する限りです。

さて今回の選挙は3期目でもあり、「藤井は大丈夫」をいかに払拭し、選挙ムードを盛り上げていくか？そのために「夢と希望、そして明日の現実！20万超！」をスローガンに掲げ、前回8位を上回る上位当選を目指しました。

そのためにまず後援会の基本となる「タイムテーブル」、「各種グッズ」の作成、配布を通じ、藤井選挙があることの周知に努めました。次に各県の後援会名簿数と得票数の目標数を設定しお願いし、全国的には「60万名簿で20万票」を目標に後援会活動を開始しました。

結果はご案内の通り、142,132票の13位で再選を果たす事ができました。

この数字の評価については9月の臨時評議員会の総括中間報告でも述べましたように、前回より3,639票落としてしまいました。このことは真摯に受け止めなければならないと思っています。色々事情のある県もあると思いますが、頑張っただけ伸ばした県もあります。

今後の総括では、これらのデータの分析を基に現在片肺である日本薬剤師連盟の政治力を作り直す時期だと思っています。

8月3日に発表された第三次安倍第二次改造内閣において、薬剤師議員である松本純衆議院議員が国務大臣(国家公安委員会委員長、海洋政策・領土問題担当、国土強靱化担当、内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全・防災))として

初入閣を果たされました。薬剤師議員の内閣は、平成24年10月の野田第三次改造内閣において、三井わきお元衆議院議員が厚生労働大臣に任命されて以来4年ぶりの快挙となりました。薬剤師議員として幅広く厚生労働行政に携わる一方、小

泉内閣(第二次・第三次)時の総務大臣政務官、麻生内閣時の内閣官房副長官などの要職を担い、当時の内閣を支えてきた実績が結実しました。国民の生活に関わる重要な任務に対し、今後の新大臣の手腕が期待されます。特に防災担当大臣

となられましたので、モバイルファーマシー等、災害時における薬剤師活動への理解が一層深まるものと思われます。これから松本議員を応援していきましょう。

# 松本純衆議院議員(薬剤師)、 国務大臣に就任



「火群まつり」は「火、水、歴史、故郷」をテーマに、五穀豊稔と疫病の退散を願って、この地域で昔から行われていたという「柱松(はしらまつり)」、「万灯籠」を中心とした「まつり」です。

当初この行事に賛同する自治会、各種団体は、たかが人口9万の小さな地域で行っても失敗するとの意見が多くあり、住民も賛同が少なかったが、それでも地域づくりには必要なことであると、開催してきました。それと各団体の賢明なる説得、組織強化により年々参加者が増え、当初目的とした活性化の実現に達しています。組織力とは一朝一夕で出来るものではなく、十分な時間と必要性の説得及び努力の賜物で出来るものだと感じた次第です。

藤井基之先生が見事3期目の当選を果たしましたことは、会員皆様の並々ならぬ努力の賜物であり、薬剤師連盟の組織力には感心しています。

さて組織力と申せば、今夏地元で夏祭りが行われました。全国各地で伝統ある夏祭りが行われていますが、地元の祭りは歴史も浅く参加者も他に比べれば微々たる行事ではありますが、この行事を計画した背景には「地域活性化懇話会の「住民を主役とする新たなイベント(まつり)の実現」という提言のもとに地区自治委員連絡協議会及び各種団体による「まつり実行委員会」が組織され、地元自然公園を十分に活用しながら住民相互のふれあいや交流の促進、魅力あふれる地域づくりのさらなる推進と共に、市全体の活性化につながる「まつり」を構築するため、検討が重ねられました。その結果「火群(ほむら)まつり」を開催することができました。

## 風力計

組織力



日本薬剤師連盟  
副会長 安東 哲也



# 目指せ、薬剤師議員!!

## 「薬剤師首長・地方議員意見交換会 開催」

8月10日(水)、グランドアーク半蔵門において平成28年度「薬剤師首長・地方議員意見交換会」が開催された。

今回も北は北海道から南は鹿児島まで、全国で薬剤師の資格を持つ県議会議員・市長・市議会議員・町長・町議会議員43名中、21名が一同に集まった。

冒頭、山本会長より日頃の活動に対する労いの言葉がかけられると共に多くの参加に対する感謝の言葉が述べられた。

続いて薬剤師国会議員の挨拶があり、今回、国務大臣に就任した松本純衆議院議員は、いつ起こるか分からないテロや災害などでは30分以内に官邸に駆けつけられる所にいることなど、行動が制限されているが、大臣としての責任を強く感じていると述べた。

続いて藤井もとゆき参議院議員は、薬剤師は薬だけでなく政治を含め幅広く活躍していることを知ってもらい、後に続いてくれる若い薬剤師が増えて欲しいと語った。

また、とかしきなおみ衆議院議員は、患者のための薬局ビジョンで薬局の役割が示された。地域包括ケアの下、予防から介護まで薬剤師が関わって欲しい。その薬剤師の将来は今日の議員の皆様にかかっているのでもう少しお願いしたいと挨拶があった。

そして、日本薬剤師連盟の現状報告として28年度事業計画・第24回参議院選挙結果・29年度予算並びに税制改正要望について、岩本副会長兼幹事長・石井副会長より説明がなされた。

その後、出席の首長・地方議員の自己紹介と意見が述べられた。

質疑応答ではモバイルファーマシーの運用法や地域包括ケアでの薬剤師への期待、麻薬小売業免許を有する薬局数や薬剤師の地位向上のための質問が多く寄せられた。

日頃それぞれの地域で活躍している方々の意識が、首長や議員である前に薬剤師であるという強い思いがあるのを感じさせられた1日であった。



山形 大石田町長  
庄司 喜與太



北海道 網走市議会議員  
永本 浩子



北海道 滝川市議会議員  
荒木 文一



北海道 赤平市議会議員  
北市 勲



北海道 江別市長  
三好 昇



山形 山形市議会議員  
齊藤 栄治

薬局の電子化が遅れているので統一したシステムを作りたい。

自治体による薬局認証制度に取り組む。

地元に着しない医師、薬剤師問題が課題。

薬局が病気の早期発見の窓口として評価されるよう取り組みたい。

地域包括ケアには薬剤師の力が重要。

他職種と連携してチーム医療を推進したい。

出席した  
薬剤師首長・  
地方議員 紹介



山形 天童市議会議員  
山口 桂子

熊本地震の支援に感謝。

震災で熊本に議員として支援。

モバイルファーマシーを  
配備し活用したい。

モバイルファーマシーが国庫補助になれば用途に制限ができる可能性あり。

特定検診を推進したい。



長崎 長崎県議会議員  
宮本 法広



兵庫 前太子町長  
北川 嘉明



栃木 栃木県議会議員  
山口 恒夫

ピンクリボン運動(乳がん防止運動)に取り組む。

アジア大会・国際展示場等ビッグプロジェクトで地元を元気にしたい。

糖尿病の予防に取り組んでおり、ベジラブ運動(野菜を摂る運動)を推進。

地元薬剤師会が「新米ママさんの薬相談」「ケアマネへの薬指導」「キッズファーマシー」等のイベントで行動力がでてきた。



熊本 荒尾市議会議員  
多田 隼



大阪 吹田市議会議員  
池淵 佐知子



群馬 伊勢崎市議会議員  
森田 修

学校薬剤師の報酬改善に取り組む。

若手薬剤師が議員を目指してほしい。

学校環境衛生の改善に取り組む。

中核市の可否について調査を実施している。

薬剤師のキーワードは「かかりつけ」



鹿児島 鹿児島県議会議員  
寶來 良治



三重 多気町議会議員  
松浦 慶子



千葉 市原市議会議員  
小沢 美佳



千葉 鴨川市議会議員  
久保 忠一



岐阜 岐阜県議会議員  
川上 哲也



愛知 愛知県議会議員  
稲本 和仁



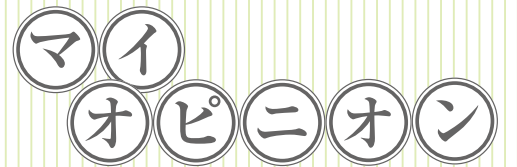
愛知 東海市議会議員  
井上 正人



岡山 総社市議会議員  
村木 理英



# ここで わせて! 本音でtalk



政府は、厚生労働省は、日本薬剤師会は、私たち現場の話を聞いて決めたのか!?  
聞かせて下さい!  
あなたの意見・見解!

## 熊本地震救援活動報告

熊本地震の前震の翌日平成28年4月15日の午後から、熊本県薬剤師会の依頼で、益城町総合体育館へ派遣され、日赤医療チームに帯同して、薬の在庫状況把握と代替品の提案などの作業を日没まで行った。その後益城町役場へ移動したが、道路の寸断、家屋の倒壊などで困難を極めた。ここでは、DMATに帯同し、大分県薬剤師会から提供されたモバイルファーマシーで調剤を行った。休憩も食事時間も取れず空腹に耐えていた午前1時25分ごろ、自衛隊員から残り物の豚汁が提供され、一口飲んだ瞬間に幸せを感じた。ヘルメットはかぶっておらず、豚汁はこぼれ、数メートル左右に揺すられ、ほんの数秒が長く感じられ死も覚悟した。当時薬剤師は3人体制(2人は大分県薬剤師会)だったが、一人はモバイル内で仮眠中に車内のベッドから落下して負傷しており、私も膝を強打して出血していた。しかしながら、重症患者の支援を優先するため、自分自身は治療もせず、Drの補助を迅速にこなさない薬

## 『患者さんから感謝されたエピソード⑦』

を上面して提供した。また、この時の気温は覚えていないが寒さ対策が必要で、地面にビニールシートを敷いたり、毛布を配布したりした。被災者の多くは着の身着のまま集まっていたため、私も夜通し皆さんに寄り添い、人員不足の中にあっても自分に出来る仕事を見つけながら活動した。少しでも安心感を持っていただけるようなコミュニケーションに努めたため、多くの被災者に感謝の言葉をいただいた。

4月18日、19日の両日、九州大学大学院の永田高志先生(DMAT)と東京都八王子市より派遣されたJMATに同行して、熊本市東区の長嶺小学校、中学校と託麻西小学校の3ヶ所を訪問し、15時30分まで被災者を回って診察に立ち会い、16時からは東区役所で行われる医療ミーティングに参加した後、災害処方箋に従って薬を用意したが、夜の22時まで一人で活動するのはつらかった。しかし、喘息の患者さんなど、薬も失った多くの被災者に感謝されたことが心の支えとなった。

エミナースでは、5月10日まで、全国から支援活動に参加していただく薬剤師

をまとめる活動を行った。また、西原村まで移動してJMATに帯同し、小中学校を回り災害処方箋の薬を提供、薬剤師だけでもトリージを行いなから、被災者に一般用医薬品の提供も行った。大津町の本田技研体育館にも出向き、自宅にライフラインのない南阿蘇村立野地区から避難してきている方々にも同じような支援を行った。

エミナース撤収後は、益城町総合体育館や、益城町保健福祉センターに移り、熊本県薬剤師会の撤収に向けて準備を行い、上益城郡薬剤師会に移行する活動などを行った。撤収にあたり、残留を望む声もあったが、地域経済や、被災者の自立支援も考えて出来るだけ早い復興のためには、過剰な支援は今後の地域活性化の障害になると感じた。また、被災者が被災者を支援する事は、自宅も被災している中、食事を用意し、道路が寸断された期間中のガソリン補給や停電中の連絡手段など、自己完結でボランティア活動に参加する事を意味する。今後の課題として被災地から活動に参加する人にも支援が必要だと言えるかも知れない。

私事で恐縮だが、私の家族もそれぞれの場所で同時に被災していたことを付け加えたい。中でも娘が東海大学農学部阿蘇校舎在学中であり、テレビ放映された学生アパートで被災し、1日以上安否が確認できず、支援活動中も生きた心地がしなかった。娘は自力で帰って来たが、この経験がその後5月29日に、熊本県薬剤師会が撤収するまでの間、ほとんど休みなく支援できた原動力となった。最後に、会社や家族の理解なしにはボランティア活動に参加出来なかったこと、物資も調達に難しい中、様々なことで協力して下さった多くの皆さんに感謝していることを記したい。

(熊本県 S.Nさん)

## 災害地における薬剤師と モバイルファーマシー

「薬をもらえたけえ、これでひと安心ばい。ありがとう。」  
「おかげで生き延びれるとたい。こん車は、すこかなあ。」  
「あんたらも、大変やろうに、まうごつ(本当に)ありがとう。」

こんな感謝の言葉をたくさんいただいたのは、直接患者さんにお薬を渡していた4月16日午前中でした。

午前1時25分の本震で、益城町役場が倒壊の恐れに瀕し、救護所は町役場の部屋から、真夜中にもかかわらず町役場駐車場に移されました。

大分県薬剤師会の加藤と御手洗は、モ

バイルファーマシー(以下MP)と共に本震で被災し負傷しながらも、DMATと一晩中、救護所で一人でも多くの人々を助けたいと、必死で活動を続けていました。

DMATの24時間対応に対応すべく、熊本市内で難を逃れてしまった私は、早朝益城町に戻り、頑張っていた二人と無残なMPの姿に、泣きそうでした。宮城県薬のMPチームに電話でアドバイスをいただき、その後山田先生と高橋先生が益城入りしてくださることになり、「とにかく、MPと共にこの益城町で、薬では誰も困ることがないようにしたい。」という思いを強くしました。

負傷した彼らと事務局二人には、ほぼ強制的に大分へ帰ってもらい、熊本県薬の小林先生、大森先生に助けをいただきました。

ながら、町役場の駐車場で活動を継続することができました。自衛隊も好意的にMPを受け入れてくれ、場所を提供してくれたのも良かったです。

益城町役場の駐車場には、続々と避難される方がいらっしゃいました。

お薬手帳を持っていらっしゃる方には、最短15分くらいでお薬をお渡しすることができました。お薬手帳のない方には、1時間以上かかることもありましたが、それでも、冒頭のような感謝の言葉をいただけたことで、MPがそこにいる意味を確信したのでした。

MP派遣について、熊本県薬廣田会長と大分県薬安東会長のご英断、心より敬服いたします。

(大分県 H.Iさん)

次号は、『患者さんから感謝されたエピソード⑧』について  
本連盟ホームページ「POWER読者アンケート」から、どしどしご意見をお送りください。  
(その他のことに対するご意見でも結構です)

<http://www.yakuren.jp/>

## 豆知識 vol.7

### モバイルファーマシー

#### モバイルファーマシー(災害時対応医薬品供給車両)について

公益社団法人日本薬剤師会が平成29年度予算・税制要望を発表しました。今年度、新たにモバイルファーマシー(以下、MP)の設置が項目の一つとして挙げられており、東日本震災、そして熊本震災を受けての要望となりました。

さて、ここで改めてMPについて、ご紹介させていただきます。

MPIは、東日本大震災後の支援活動を教訓に設置され、現在、大分県、和歌山県、広島県、鳥取県に配備されています。熊本震災後の支援活動では、その機能が初めて本格的に活用され、災害支援活動にきわめて有用であることが実証されました。

簡単に言うと、キャンピングカーを改造した移動式の薬局です。外装はキャンピングカーそのものですが、内部は、まさに薬局の調剤室で、調剤棚、自動分割分包機、水剤調剤用シンク、冷蔵庫等が備わっており、コンパクトな調剤室というイメージです。

乗車定員は3名、燃料は軽油で、もちろん普通免許で運転できます。

電力に関しては、外部からの確保が困難であれば、ポータブル発電機、ソーラーパネル(車体天井部に設置)等により、別ルートでも対応できます。

車内にはルームエアコン、バンクベッド、カセット式水洗トイレも設備されており、いわゆるキャンピングカーの要素も生かされています。

モバイルファーマシーは、様々な災害が発生したとき、その機動性を活かし、薬剤師が調剤を行う拠点として機能します。災害・救護所に設けられた診療所から発行された処方箋を的確に調剤し、被災者の方々に速やかに医薬品を供給すると共に、健康相談の応需や衛生環境の改善などに向けて、今後も活躍していくことでしょう。是非、全国的な設置をお願いしていきたいものです。





# ファーマくんがゆく

## 日本薬剤師会 森昌平副会長を お訪ねしました

「ファーマくんがゆく」シリーズが、1年ぶりに復活しました。今回からは(公社)日本薬剤師会の副会長を訪ね、担当されている業務や私生活等についてお聞きしたいと思います。

日本薬剤師連盟は、薬剤師職能発展のために活動している日本薬剤師会の目的を達成することを目的として政治活動を行っていますので、日本薬剤師会の要職にある副会長がどのような方かを知ることが大事なことと考え企画してみました。



森昌平(もり・しょうへい)副会長プロフィール

●昭和61年帝京大学薬学部卒業。  
●薬局勤務を経て栃木県に薬局開設。  
●平成26年6月より日本薬剤師会副会長。

と思っています。現在、国は、2025年に向けて「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。その中で薬局は、地域の医薬品等の供給拠点として、薬剤師は地域住民の健康の維持・増進、服薬情報の一元的・継続的把握とそれに基づく薬学的管理・指導などを担う一員として、その機能・職能を最大限に発揮でき、薬剤師が夢とプライドを持って働けるようにしたいと思っています。

**ファーマ** 先生の故郷を教えてくださいませんか。また、ふるさと自慢を願います。

**森副会長** 栃木県の佐野市になります。都心から約90キロ、栃木県の南西部に位置し、市内には日本名水百選にも選ばれた「出流原弁天池湧水」、万葉集にも詠まれ、かたくりの花が群生する「三轟山」、藤原秀郷公が築いたと言われる「唐沢城」、「佐野厄除け大師」、「佐野プレミアムアウトレット」などの観光名所等があります。また、佐野ラーメン、いもフライ、ファーマくんのライバルであるキャラ日本一になった「さのまる」が有名です。ぜひ、一度遊びにいらしてください。

**ファーマ** 先生のご趣味を教えてくださいませんか。

**森副会長** 最近、なかなか時間が取れないのですが、家族で旅行に行くことを楽しみにしています。子供が小さい頃は、海水浴、スキーを兼ねて家族旅行をしていました。

**ファーマ** 先生は薬局薬剤師として長年にわたって地域で活躍されています

が、薬局薬剤師になられた経緯について教えてください。

**森副会長** お恥ずかしい話ですが「薬剤師になりたい」と強い意志があったわけではなく、薬剤師の家系で育ち、子供のころからなんとなく薬剤師になるものだと思っていました。

**ファーマ** 薬局業務を通じて記憶に残ることなどを教えてください。

**森副会長** いろいろありますが、薬学部を卒業して勤務した薬局に「Role Model」となる先輩の薬剤師が何人もいて、先輩の働く姿から薬剤師としての「倫理観」「職業観」「使命感」を学んだことです。

また、平成3年に地元に戻り開局しましたが、確かその年の年末だったと思います。深夜、近隣の医療機関から処方箋が発行され、夜、20数名の患者が来局し、待合室がいっぱいになってしまいました。妻に手伝わってもらいな

がらなんとか調剤しましたが、長時間待たせてしまったにもかかわらず、ほぼすべての患者さんから夜遅い時間の対応に感謝されたことが思い出として残っています。

**ファーマ** 日本薬剤師連盟に対する印象等はいかがでしょう。

**森副会長** まずは、先日の参院選での薬剤師連盟の活動は素晴らしいと思います。日本薬剤師会の役員になってから、連盟活動の重要性がよくわかるようになりましたが、現場の薬剤師の先生に連盟の活動、その重要性についてもっと知ってもらいたいと思います。連盟あつての薬剤師であり、そして日本薬剤師会だと思っています。

**ファーマ** 最後に、薬剤師として最も大事にしていることがありましたら教えてください。

**森副会長** 「薬剤師法第一条」を常に忘れずに仕事をしています。そして、先

輩薬剤師への感謝と次の世代の薬剤師の育成です。



**ファーマ** 本日は、貴重な時間をさいいただき、また丁寧なご説明をいただき、ありがとうございます。これからも薬剤師のために活躍いただくことを期待しております。

もとゆき Report 藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士  
自民党総務副会長・参議院議員  
藤井もとゆき

### 平成29年度予算概算要求

第2次補正予算案やTPP関連法案の審議等が予定される臨時国会は、9月半ば過ぎに開会することで調整が進められています。国会の開会に向けて、自民党内の組織体制も順次決まりつつあり、私は8月30日の自民党総務会において副会長に任命されました。

総務会は、党大会、両院議員総会に次ぐ自民党の意思決定機関で、党内に常設する最高位の意思決定機関であり、25名の総務により構成されています。細田博之衆議院議員が会長を務め、会長代行、会長代理を含む7名の副会長が選任されています。総務会は党の運営及び国会活動に関する重要事項を審議決定することが党則に規定され、内閣が国会に提出する議案は、閣議決定前に総務会で事前承認するのが原則となっています。会長を補佐し、その重責を果たして行きたいと思っております。

さて、平成29年度予算の概算要求は8月末に各省庁から提出されました。要求総額は102兆円を超え過去最高となった昨年度は下回ったものの101兆円台となり、3年連続での100兆円超えとなりました。厚生労働省の概算要求額は31兆1217億円、平成28年度当初予算に比べてプラス2.7%、8108億円の増額要求となっています。このうち年金・医療等に係る経費は、高齢化に伴う社会保障費の自然増分として6400億円を加え、前年度当初予算比2.3%増の総額29兆1060億円となっています。

また、厚生労働省は組織・要員について、医療・保健分野では部局が連携して対応の必要な重要課題が多数あることや感染症等の健康危機管理をはじめ外交における重要性も増大していることから、これらの重要施策を包括的に管理する「医務総監」(仮称、次官級ポスト)の新設、並びに直面する働き方改革、少子化・子育て支援対策への確実に対応するため、労働関係部局の再編・新設を要求しています。

年末の政府予算編成に向けて、社会保障の充実に必要な費用の獲得に努めて参りたいと思っております。

### 編集後記

#### 支える側

連日リオデジャネイロ五輪の熱戦が伝えられています。今朝のニューズで私は歓喜と大涙を流しました。バトミントン女子ダブルスが宿敵韓国ペアに快勝しメダルが確定、何故か物凄く嬉しかった。卓球女子団体銅メダルのニュース映像で福原愛選手の涙のインタビューに私だけでなく日本中が感動したと思います。私も大涙が止まらなかつた。選手を支える側で印象的だったのは男子柔道の井上康生監督です。最終日に全階級でメダルを確定したインタビューでは、しっかりと答えながらも涙が溢れ出ていました。お家芸と言われた柔道日本を指揮したプレッシャーは相当だと感じました。五輪出場選手は競技終了後、異口同音「支えてくれた協会」「コーチ」「家族」「友人に感謝」を言い、支えた側も感動に震える良い関係です。

先般、参議院選挙で日本薬剤師連盟は藤井もとゆき先生を当選させることが出来ました。

この選挙において私たち日本薬剤師連盟や支援団体は協会「コーチ」家族にあたります。

6年間思いっきりプレー(議員活動)をして頂きたいと思っています。そして3年後も支えるに値するプレイヤー(議員候補)を決定し、感動に震える瞬間を味わいたいと思います。

そのためにも支える側の都道府県薬剤師連盟の3年間の覚悟のある活動が求められると思います。

#### 広報委員

- 安東 哲也、石井 甲一
- 鳥海 良寛、大澤 泰輔
- 大原 整、榑方 絢子
- 近藤直緒美、根本 陽充

(H.O.)